

2019年度
学士課程教育機構評価分科会
点検・評価報告書
(最終)

2020年2月25日

第4章 教育課程・学習内容

(1) 現状説明

点検・評価項目③：教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

評価の視点：

○各学部・研究科において適切に教育課程を編成するための措置

・各学位課程にふさわしい教育内容の設定

(＜学士課程＞初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等

本学の教養教育は、語学を始めとする基礎的学習技能の養成、時代や社会に対する問題意識・批判的思考力の涵養、多様性を受容し他者と協働するコミュニケーション力の開発、習得した幅広い知識・技能を関連づけ問題解決に活かす態度の形成など、大学全体のディプロマ・ポリシーに謳う能力・資質の開発・養成を目指して開講している。

それを大別すると①自然・社会・人文科学さらには学際領域にわたる基礎知識の習得を目的とする科目群、②外国語コミュニケーションスキルも含め本学のアカデミックトレーニングに耐えうる基本を学ぶことを目的とした科目群、③本学学生としての自立や卒業後の社会生活・職業的自立の準備を支援するキャリア形成支援科目群、および④世界市民育成プログラムと呼ばれるオナーズプログラムの4つに整理されるが、共通教育カリキュラム上は10に細分化している(細分化した科目群分類は次ページの表を参照)。いくつかの上級プロジェクト・実地演習系科目を除き、ナンバリングの100番台200番台のレベルに授業内容(学習到達目標)を調整している。

共通科目の中でも、基礎科目、大学科目、言語科目、世界市民教育科目の各科目群において、創価大学生として必ず履修すべき科目を設定することで、共通教育の「質保証」を明示することを目指している。これを「創価コアプログラム」と呼び、プログラムに含まれる科目については、複数の教員が担当する場合でも、授業内容、教科書、評価方法のスタンダード化をはかっている。

初年次段階の配慮としては、2014年度に採択された大学教育再生加速プログラム事業(以下、AP事業)の一環として、初年次教育で重視される①対人関係も含めた大学生活適応、②大学生としての学習習慣の形成・学習スキルの習得、③専門領域への興味喚起・学習意欲の醸成、の3項目のうち、いずれかを授業目標として開講される科目を、アクティブラーニングへのレディネス醸成を意識した科目(初年次教育対象科目と呼称する)として設定した。2019年度時点では、

初年次セミナーと学術文章作法Iをはじめ、英語I/II, キャリアデザイン基礎、ワールドビジネスフォーラム、思考技術基礎、ボランティア入門の計8科目となっている。

高大接続の観点からは、入学時に英数国のプレースメントテストを行い、その点数（高校までの当該科目領域の習熟度）を考慮したクラス編成あるいは履修クラス推奨を行っている。

学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育としては、1年次前期（第一セメスター）でキャリアガイダンスを行い、第二セメスター以降、1年次から3年次にかけて順次、キャリアビジョン、ワールドビジネスフォーラム、キャリアデザイン基礎、キャリアデザインIなど継続的・体系的なキャリア形成支援科目を配している。

表 共通科目における科目群

科目群	説明
基礎科目	初年次セミナーや学術文章作法など、大学での学習を進める上での基礎を学ぶ
大学科目	創価大学の歴史や創立の精神を学ぶ
言語科目（英語）	英語については、4つの力（リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング）や留学、就職に向けての英語力を身につける。また、英語以外の言語については初修レベルから応用レベルまで学ぶ
世界市民教育科目	グローバル社会における諸課題について幅広く学ぶ
人文科学系科目	歴史や哲学、文学など、人文科学に関する基礎を学ぶ
社会科学系科目	社会学や経済学、経営学など、社会科学に関する基礎を学ぶ
自然・健康科学系科目	数学や理科などの自然科学や健康科学に関する基礎を学ぶ
キャリア教育系科目	進路選択や就職に関する力を身につける
グローバルシティズンシッププログラム（GCP）科目	2年間の集中的なプログラムにより、グローバルリーダーとして活躍する能力とスキルを磨く
日本語・日本文化科目	日本語の基礎から応用までや日本文化を学ぶ

点検・評価項目④：学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

評価の視点：

○各学部・研究科において授業内外の学生の学習を活性化し効果的に教育を行

うための措置

- ・学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法

< 学士課程 >

学士課程教育機構内に総合学習支援センターを設置し、SPACEと呼ばれるラーニングコモンズを運営している。SPACEは学期内平均2200名（延べ）／日の学生が利用する授業外学習の場である。SPACEでは自学自習の場の提供だけでなく、Help Deskにおける履修・学習相談、日本語ライティングセンターによるレポートチュータリング、セミナールームなどを活用した学習セミナー（タイムマネジメント、ノートテイキング、ストレスマネジメントなど）、図書館と連携した読書推進活動（ブックトーク、ビブリオバトルなど）を課外学習支援サービスとして提供している。

- ・適切な履修指導の実施

学期初めにはHelp Deskの学生スタッフが学生目線で履修相談にあたり、毎年4月には100名前後の新入生が履修アドバイスを受けている。

加えて、アクティブラーニングを苦手とする学生など学習適応に困難を抱える学生に対して、臨床心理の専門スタッフがアドバイザー教員と連携しながら個別相談を行うオアシス・プログラムも提供し、学生の学習支援をおこなっている。2019年度春学期については、44名の学生に対して延べ227回の学習支援を行った。

点検・評価項目⑤：成績評価、単位認定および学位授与を適切に行っているか。

学士課程教育機構に置かれる共通科目運営委員会では、共通科目の成績分布を点検し、各科目群の授業者が集まる科目担当者会（学期に1回）において、その現状を報告・共有している。また、共通科目の担当者には、自身の担当した科目について、ラーニングアウトカムを意識した自己点検のレビュー書の提出を促している。レビュー書については、機構の執行部でレビューをして良いものについては例示し、適切な評価方法のモデルを明示している。

点検・評価項目⑥：学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

評価の視点：

○各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定

本学は、大学全体および学位プログラムのディプロマ・ポリシー達成を目指し、2018年度より大学全体および学部ごとにアセスメント・ポリシーを公表している。そして、機関（大学全体）・プログラム（学部）・授業の各レベルおよび課外活動においてアセスメントを実施し、教育改善に活用している。

そのうち、機関（大学全体）レベルにおいては、直接指標として①GPAの推移、②TOEIC得点の変化、③語学基準達成者数の推移、④就業力測定試験で測られた汎用的能力のスコアの向上等を活用する。また、間接指標として①留学・課外ラーニング・アウトカムズの測定、②学生生活アンケート、③アセスメント科目における汎用的能力伸長ルーブリック、④進路決定率等を活用する。それらの自己点検評価については、学士課程教育機構評価分科会と学生支援評価分化会が分担して行っている。

○学習成果を把握及び評価するための方法の開発

《学習成果の測定方法例》

- ・アセスメント・テスト
- ・ルーブリックを活用した測定
- ・学習成果の測定を目的とした学生調査
- ・卒業生、就職先への意見聴取

学位に直結する学習成果の把握でなないが、AP事業を機に始めたアセスメント科目における汎用的能力進捗診断ルーブリックの使用は、事業終了後も継続される。学生は自身の成長を卒業までに最低3回、ルーブリックなどを使って点検することができる。

さらに学年ごとに行う学生調査では、教養教育のラーニングアウトカムズ到達具合を自己評価させている。学生調査はIR室が実施・分析しており、その結果は適時、共通科目担当者会などで共有・検討される。

また、AP事業を機に開始した卒業生調査は対象卒業年度を替えながら毎年行っている。調査結果はIR室で共有・検討され、特徴的な事項については適時、全学評議会などを通じて教職員に報告される。

点検・評価項目⑦：教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行

っているか。

共通教育のカリキュラムは科目群ごとに、学期に1度定期開催される科目担当者会を軸に改善に向けた情報交換がなされている。また、4年に一度のカリキュラム改訂に際しては、学士課程機構長、教務部長が中心となったワーキンググループを作り、大学全体で目指す（大学の教育目標に則った）学修成果の達成と、専門教育との連携を視野に改訂案を作成している。作成された改訂案は学士課程教育機構運営会議及び大学教育評議会に報告・審議され、全学的合意の上を実施される。

共通教育の科目担当教員は、学士課程が定める8つの学修成果項目のうちから1～3を選び、選んだ項目の達成を意識した教育内容や教育方法を行っている。それらの取り組みがどの程度成果をあげているかは、学年ごとに行う学生生活アンケート調査により、量的に把握している。この調査はIR室が実施しており、学士課程機構会議に対し、適時、IR室より情報提供されている。

第6章 教員・教員組織

(1) 現状説明

点検・評価項目③：教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。

学士課程教育機構では、学術文章作法を中心とする初年次教育科目担当助教を毎年、公募によって若干名採用している。JRECを介して一般募集し、公募要領は機構HP上に公開している。書類選考により候補者を絞りこみ、模擬授業を含む面接によって採用を決めている。なお、初年次教育科目担当助教の任期は3年として、昇任も含め契約更新は原則行っていない。

機構内のWLCでは、English I～IVやセルフアクセスプログラムを担当する助教について、毎学期、本学大学院文学研究科国際言語教育専攻英語教育専修、及び英文学専攻の修了生に対し募集を行い、書類選考を経て面接を実施し、その結果をWLC人事委員会、WLCコーディネーター会議にて報告、承認を得た上で学士課程教育機構運営委員会において審議し採用を決定している。助教の採用は年間通して3名、任期は3年としており、昇任も含め契約更新は原則行っていない。英語嘱託と講師の募集については、JACET、JALT、JRECを介して一般募集し、書類選考により候補者を絞り込み、面接を行っている。その結果をWLC人事委員会、WLCコーディネーター会議にて報告、承認を得た上で学士課程教育機構運営委員会において審議し採用を決定している。任期は3年であるが、2回まで更新可能となっており、最長9年間勤務できる。契約更新に際しては、「WLC教員の契約更新についての申し合わせ」に則り、教育、業務、研究の3点にわたり、面接と、自己・他己評価の結果を合わせ基準に達しているかどうかを検討し、その結果をWLC人事委員会、WLCコーディネーター会議にて報告、承認を得た上で学士課程教育機構運営委員会において審議し契約更新を決定している。講師から准教授、准教授から教授への昇任については、候補者が出れば、審査員2人による業績審査を行い、その結果をWLC人事委員会、WLCコーディネーター会議にて報告、承認を得た上で学士課程教育機構運営委員会において審議し採用を決定する運びとなっている。

評価の視点：

- 教員の職位（教授、准教授、助教等）ごとの募集、採用、昇任等に関する基準及び手続の設定と規程の整備
- 規程に沿った教員の募集、採用、昇任等の実施

点検・評価項目④：ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。

評価の視点：

- ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動の組織的な実施
- 教員の教育活動、研究活動、社会活動等の評価とその結果の活用

学士課程教育機構が、創価大学FD・SD委員会とFD・SDを推進する教育・学習支援センターを所管している。

創価大学FD・SD委員会（年3回程度開催）において、全学的な3か年計画と年間計画を決定し、それに基づいて各学部に配分された予算を活用しつつ、学部単位の年間計画を策定している。今年度は、2017年度以降の全学的なFDの取組み（目標）である「個人レベルの授業改善と同僚性に基づく教育改善の推進」（2017～2019年度の取組み）の最終年度になり、各学部の事情に応じて、個人レベルのFD・SDを推進してもらうために、教授会等において、教員ひとり一人が、18年度のFD活動のふりかえり、自己点検を行った後に、それに基づいたFD・SD計画の作成を促すように依頼している。作成した各個人の計画書は、学部単位で回収し、学部長、副学部長が内容を確認して、FD・SD委員会に報告してもらっている。

全学的なFD・SDの実施は、CETLが中心になって推進している。本年度は、セミナーを9回、フォーラムを1回、以下に示す内容で実施（一部予定を含む）している。

- 2019年度学士課程教育機構FD・SDセミナー（公開を前提とした取組）

第1回5月24日（金）望月雅光（教育・学習支援センター長）FD入門

第2回6月8日（土）安永悟氏（久留米大文学部教授）LTD入門

第3回6月21日（金）特色ある授業実践から学ぶ1

第4回6月29日（土）JPFシンポジウムと共催／

- ・高橋浩太郎氏（文部科学省大学改革室室長補佐）

- ・佐藤昌宏氏（デジタルハリウッド大学大学院教授）

第5回9月7日（土）初年次教育学会と共催・中原淳氏（立教大学教授）

第6回11月8日（金）佐藤広子（学士課程准教授）読解力向上につなげる教職学協働の取り組み

— 初年次教育科目「学術文章作法Ⅰ」と日本語ライティングセンター、及び図書館SBWとの協働を通して —

第7回11月22日（金）特色ある授業実践から学ぶ2

第8回12月6日(金) 朴勝俊氏(関西学院大学) 心をつかむプレゼンテーションの技法

第9回3月7日(土) 鈴木克明氏(熊本大学) インストラクショナル・デザイン

○第5回教育フォーラム(第17回FD・SDフォーラム) / AP事業報告会

開催日時: 2019年10月19日(土) 午後

会場: 創価大学中央教育棟AB102教室

基調講演:

平野 博紀氏 / 文部科学省高等教育局大学振興課 大学改革推進室長

深堀聰子氏 / 九州大学教育改革推進本部教授

AP事業最終報告・本学の取組紹介の紹介

これらのセミナーやフォーラム等については、教員については、年間3回以上の参加が義務付けられており、FD・SD委員会において、各教員の参加状況を確認し、目標の達成を促している。

第7章 学生支援

(1) 現状説明

点検・評価項目②：学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

総合学習支援センター (SPACE) では、以下のような様々な学生支援サービス・プログラムを提供している。

(1) 学習・履修相談

学期初め履修相談では、シラバスの活用方法、1週間の中での授業の組み立て方などをアドバイスする。また、なんでも相談では、大学生活を送る中で生じる悩み、疑問について、話を聞いたり相談に乗ったりする。

その他、レファレンス・サービスについては、専門スタッフが文献検索の方法についてアドバイスを行っている。

(2) 学習セミナー

次に、学習セミナーについて述べる。2019年度春学期については以下のような学習セミナーを開催した。

- ・超初歩から教えます！ポータルサイトの使い方・メールの送り方
- ・論じなさい？まとめなさい？ 中間レポート必勝法
- ・パソコン苦手大歓迎！理系学生が伝授！ ITを駆使したスマートな学生生活(初編)
- ・レポートの書式がよく分からない…… ワードの使い方
- ・君は4年間をどう過ごす?? 圧倒的に差がつく大学生活4年間の過ごし方
- ・レポートの参考文献が見つからない…「参考文献を探そう！」
- ・Do you want to study abroad? 「交換留学必勝講座」
- ・楽しく安全にSNSを使うために…「見直してみよう！LINEやTwitterの設定」
- ・長距離通学のプロ(自称)が教える！「長距離通学・虎の巻」

いずれも、入学直後の新入生の多く抱える悩みや相談に対するものから、上級年次の学年生にも関心のあるプレゼンテーション技法や留学アドバイスなど、多岐にわたるセミナーを開講している。

(3) 日本語ライティングセンター関連としては、助教および大学院生スタッフが、レポート作成について過程ごとに個別相談・指導を行うレポートチュータリングや、Web上でのレポート添削、改善の助言を行うレポート診断サービスがある。

(4) また、様々な学習に関する悩みの相談を受けるオアシス・プログラムを開設

し、心理的支援・対人援助の資格を持つ担当者が、学生の支援ニーズに沿ったサポートを行う。定期的な面談を通して、学生の学習意欲と自己管理能力の向上を促している。2018年度からはオアシス・プログラムの一環として、グループワークが苦手な学生を対象にグループワークイベントを開催しており、2019年度も継続して開催している。毎回8名程度の学生が参加しており、2020年度も開催する予定である。